学校番号	3024

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	『新日本史Ａ新訂版』（実教出版）						
副教材等	『最新日本史図表』四訂版（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・過去の一点一点が「現在」につながっていることを認識し、現代社会が直面する諸課題について主体的に考察し、より良い社会を構築する指針とする。
・これから世界をフィールドに活躍する際に、現在自分が生きる国の歴史や在り方について必要な知識と理解を持つことにより、他国や異なる文化を理解し、尊重する姿勢を養うことができる。
・歴史は実証的な学問である。つねに公正かつ客観的な視点を持ち、歴史的事象を多面的かつ多角的に捉えることができる柔軟な視点が必要である。
・近現代史を深く学習することにより、グローバル化した世界の状況を読み取る。

2　学習の到達目標

近現代史を中心とする日本の歴史の展開を、世界史や地理的条件と関連付けて考察することを通して歴史的思考力を培い、現代の日本と世界が直面する諸課題について深く考察し、グローバル化が進む現代において、平和で民主的な世界を構築するために国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する国民としての責任を果たそうとする。	日本の近現代の歴史の展開から課題を見いだし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	日本の近現代の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の近現代の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	近代国家と社会の形成	・世界と東アジア ・近代国家の誕生 ・近代社会の形成	○	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	a:開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 b:開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について，国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察している。 c:文献資料や写真、絵画資料から、日本の近代化の進展について諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取る。 d:開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程についての基本的な事柄を，国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	ワークシート 定期考査
	二つの戦争と大日本帝国	・日清戦争と日露戦争 ・帝国形成期の社会	○	○ ○	○ ○	○ ○	a: 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化，産業革命の進行とそれに伴う社会問題の発生などに着目して，２つの戦争が関係する国の政治や経済、社会にもたらした変化を意欲的に追究している。 b: 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化，産業革命の進行，社会問題の発生などに着目して，２つの戦争が起こった背景、経緯、国際情勢や国民意識に与えた影響について多面的・多角的に考察する。 c: 様々な資料や写真、絵画、統計資料などから、当時の政治や社会の状況を示す情報を読み取る。 d: 19世紀末から20世紀初頭にかけての近代史の展開についての基本的な事柄を，国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	ワークシート 定期考査

	帝国とデモクラシー	・大正デモクラシー ・ヴェルサイユ体制とロシア革命	○ ○	 ○	○ ○	○	a: 第一次世界大戦前後の世界の動向やの日本の経済、社会について意欲的に調べ、日本の植民地の動向などを踏まえて1910 年代の近代史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 b: 1910 年代～20 年代の社会運動の高まりについて、経済の動向やデモクラシーの風潮との関連づけて多面的・多角的に考察する。 c: 様々な資料から、第一次世界大戦やその時期の日本や東アジアの状況、日本の国際的地位の変化を読み取る。 d: 第一次世界大戦とそれが我が国の経済発展に与えた影響，ワシントン体制の成立と日本の対応，大正デモクラシーの展開，日本の植民地の動向などの基本的な事柄を，国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	ワークシート 定期考査

二学期	デモクラシーの展開と帝国の変容	・都市化と市民文化 ・東アジアの情勢と恐慌	○	 ○	○ ○	 ○	a: 大正デモクラシーの展開のなかでの大衆文化の形成と社会の変化，関東大震災とうち続く恐慌への対応など，1920 年代の近代史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 b:1920 年代の政党政治について、普通選挙法と治安維持法の成立などを手がかりとして多面的・多角的に考察する。 c: 文献資料や写真、絵画資料を分析し、当時の国際情勢や日本の政治、社会の様子を読み取る。 d: 大正デモクラシーの展開から第二次護憲運動を経て政党内閣が「憲政の常道」となった背景を踏まえ、協調外交の行き詰まりなどを国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	ワークシート 定期考査

	アジアの戦争と第二次世界大戦	・日中 15 年戦争 ・アジア太平洋戦争	 ○	○ ○	○ ○	○ ○	a: 軍国主義が台頭する中、日本をめぐる国際情勢の変化について意欲的に調べ、満州事変から敗戦に至るまでの近代史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 b:日中戦争の長期化と総動員体制の構築，アジア太平洋戦争の展開と戦時下の社会における国民の反応などを通して、それらの事象が日本の政治や社会、経済に与えた影響について国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察する。 c: 文献資料や写真、絵画資料を分析し、軍国主義台頭の背景や国民の反応、「大東亜共栄圏」の実態などを読み取る。 d:長期化する日中戦争と総動員体制の構築，アジア太平洋戦争の展開と戦時下の社会，植民地の動向などについての基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	ワークシート 定期考査

	現代日本の潮流	・戦後世界と日本 ・冷戦と日米安保体制	 ○	○ ○	○ ○	○ ○	a：国際連合の成立と冷戦の開始，アメリカによる占領政策と諸改革など 1950 年代までの戦後史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 b：50 年代までの戦後史の展開から課題を見いだし，戦後の国際秩序の特質について国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察する。 c：ポツダム宣言や日本国憲法の制定に関する文献資料から，占領政策の特質や戦後の日本が掲げた理想などを読み取る。 d：国際連合の成立と冷戦の開始，アメリカによる占領政策と諸改革，日本国憲法の制定，朝鮮戦争，日本の独立回復と沖縄，平和運動の展開，50 年代の社会と文化など，50 年代までの戦後史の展開についての基本的な事柄を，国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	ワークシート 定期考査

三学期	冷戦の中の経済成長	・高度経済成長下の日本 ・経済大国		○ ○	○	 ○	a：冷戦体制の下、韓国や中国との国交正常化、沖縄返還と経済大国化と日米同盟など，80 年代までの戦後史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 b：1980 年代までの戦後史の展開から課題を見いだし，国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 c：文献資料・写真資料などから 1980 年代までの事象に関する諸資料を収集し、各地域の問題も踏まえながら、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し，読み取る。 d：冷戦下での日本の国際社会へ復帰が政治、経済、外交にもたらした影響を踏まえ、現代の諸課題につながる基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	ワークシート 定期考査

	現代の日本	・転換した世界のしくみ ・現代日本の課題	 ○	○ ○	○	○	a: 冷戦体制と 55 年体制の終焉，経済のグローバル化の進展，そして 21 世紀に入ってからの日本の政治・経済・社会の動向に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 b: 現代の諸課題を、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 c:現代の諸課題に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取る。 d: 冷戦体制と 55 年体制の終焉，経済のグローバル化の進展，そして 21 世紀に入ってからの日本の政治・経済・社会の動向についての基本的な事柄を，国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	ワークシート 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。